

令和6年度東部地区道徳教育研究協議会

羽生市立川俣小学校

【中学年部会】

主 題 名 礼儀正しい行動を

内容項目 B 礼儀

教 材 名 「かなちゃんへの手紙」

(彩の国の道徳「みんななかよし」)



授業の様子



協議会の様子

1 各グループからの発表（ワークショップ型分科会）

- 学習規律がしっかりと身に付いている。学級全体で、生き方について一生懸命に考えていた。
- 児童の考えが深まる問い返しの工夫や、全体での共有の仕方について学ぶことができた。
- 日頃、児童の発言の広げ方について悩みながらやっている。一問一答にならないように工夫していきたい。
- 自己の生き方について書く活動では、時間を確保したことがよかった。自分を見つめ、礼儀について自分との関わりで考える姿が見られた。
- 協議題に沿ってグループ協議をすることで、新たな視点で授業づくりについて考えることができた。
- 「彩の国の道徳」を活用した授業を拝見することができて参考になった。

2 指導講評

- 礼儀の根底には他者への尊敬や思いやりがある。教師がねらいを意識することは大切だが、児童から思いやりに関する考えが出るのは自然な流れである。
- 導入では問題意識をもたせるとよい。いつでも礼儀正しい行動ができているか想起させることで、その難しさに気付かせ、どんなことが大切なのか考える方法もある。
- 話し合いを深めるために有効な発問があった。児童から出た発言を揺さぶることで話し合いが深まる。「実際は机の中に手紙を入れなかったのだから、いいんじゃないの？」等の補助発問も考えられる。あわせて、礼儀のよさも感じさせたい。
- 自己を見つめ、考えたことを書く活動では、どの児童も一生懸命に考えを書いていた。導入の段階で考える必要感をもち、話し合いが深まると、しっかりと自分と向き合うことができる。今後も、自分事として捉え、自己の生き方について考えられる時間にしていただきたい。
- 教室の中に道徳の学びの足跡を残すことで、教育活動全体で道徳的価値について意識することができる。道徳科の授業と生活が結び付き、児童の道徳性を育むことができる。

